

令和2年度第1回岡崎市商工振興計画推進委員会議事録

1 日時

令和2年5月29日（金）（書面開催）

2 書面提出委員

全委員

3 議事要旨

3-1 資料3-1、3-2、3-3「社会展望、本市の強み・弱みの分析」について

（意見・感想・提案など）

- 新型コロナウイルス感染症の影響について、しっかりと情報収集、計画を策定すべき。
- 「中部圏5.0の提唱」（中経連2018）で中部圏の強みと今後の問題点が整理されている。大枠としてこれを意識しながら計画を検討していきたい。
- インダストリー4.0、ソサイエティ5.0、CASE等のイノベーションは本市にとってチャンスではなく脅威になると感じる。これからの成長産業をどう取り込んでいくのかが課題だ。
- 本市は住みやすい街であり、大企業のサラリーマン家庭が多い。人生100年時代を充実させるために、中高年齢者の学び直し、セカンドキャリアへの関心は高い。
- 周辺他市と本市の違いが統計データ等により示されるとよい。
- 定性的な評価ではなく、目指すべき将来像を具体的な数値目標にて設定すべき。
- あれもこれもと対応せず、「何がしたいのか」ターゲットを絞っていくことが重要。

3-2 資料4「新計画の基本方針・目指すべき将来像」案

『仕事のしやすい 働き甲斐のある 共創イノベーション都市 岡崎』 について

（意見・感想・提案など）

- 「共創」という考え方に賛成する。計画では行政の立ち位置を明確化すべき。
- 「共創イノベーション都市」には、本市が保有する様々なリソースを活用してイノベーションを起こさなければならないという強い意志が感じられて大変良い。
- 中小企業・小規模事業者を孤立させることなく、地域が一体となって「共創イノベーション」に取り組むことが重要だ。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により企業が継続していくために、ICTを活用して、多様な価値観、働き方（テレワーク、副業・兼業を含む）を活かしたビジネスモデルへの転換が必須である。「働き甲斐」「ワークライフバランスの向上」は労働者にとってさらに重要性が増してくと思う。
- 工業用地、商業用地への農地転用が他市に比べて著しく弱い。この点を重点的に改善しなければ時代のニーズに対応できず、発展が望めない。

○本市の強みは、三河地域の他地域と比較して自動車産業への依存度が低く、多様な中小企業の集積が見られることにある。

○新型コロナウイルス感染症の対応のため、中小・小規模事業者の多くは企業維持のために多額の借入れをせざるを得ないが、借入返済負担の重さから経営者のモチベーションが低下し、倒産又は廃業が急増し、地域経済の停滞につながらないか危惧する。

○「仕事のしやすい」「働き甲斐のある」は優良企業に必要な要件であり、個々の企業が取り組むべきことである。従来の自動車産業を中心としたものづくり産業都市から、デジタル情報産業都市へ産業構造を変えることを期待したい。そこでスローガンとして「ものづくりからコトづくりに デジタル情報コトづくり都市 岡崎」を提案したい。

○本市の「目指すべき将来像」について、具体的なイメージを共有し、達成するための具体的な施策を検討していきたい。

3-3 新計画、あるいは、今後の本市の産業労働施策において本市に期待すること (意見・提案など)

○デジタル分野でのリカレント教育は市内の大学とも親和性が高い。

○新型コロナウイルスの影響を踏まえて雇用を維持していくためにも、中小、小規模事業者は新たなビジネスへの転換が迫られている。

○市は民間のノウハウや資本をもっと活用すべき。

○本宿地域におけるアウトレットモールにより額田地区が活性化する期待する。

○額田エリアの開発許可申請の要件を緩和し、住宅・企業進出を進めるべき。

○康生などの空き店舗を事務所にするなどの新たな活用方法も検討すべき。

○総花的な計画を脱し、重点的な施策を明確化すべき。

○総合計画、総合政策指針と商工振興計画の位置関係を明確にすべき。

○現行の商工振興計画のふりかえりを基にできたこと、できなかったことを把握すべき。